

FMU にじいろ通信

第8号 2024年3月発行

草木が芽吹き、春らしい日差しとなり、ライフバランスに関するイベントもコロナが収束への方向となり、以前と同様に行われるようになってまいりました。

今回は、初開催の特別企画『理事長と語ろう』や『成果報告会』『看護学部カフェ』等をお伝えいたします。

ダイバーシティ推進室特別企画「理事長と語ろう」

令和6年3月8日(金)に、ダイバーシティ推進室特別企画「理事長と語ろう」を7号館大会議室にて開催しました。



生体機能研究部門助教 西澤佳代先生が『きいてください 竹之下先生』
消化管外科助教 伊藤美郷先生が『研究者そして 外科医として第一線で
働き続けるために』というテーマでご発表下さいました。

ライフイベントに対する支援体制をどれだけ必要と感じているか、働き続けるためには職場のフォローアップがどれだけ必要であるかなど、それらを支えるシステム構築の重要性など織り交ぜながらお話しいただきました。

竹之下理事長からは、女性研究者・医師を取り巻く状況の移り変わりや現状をご自身の体験談を交えながらご講演いただきました。

講演の後の質疑応答のコーナーでは、竹之下理事長が聴講者に向かい、問われた内容に対しユーモアを交えながら、ご自身のダイバーシティに対するお考えや、女性研究者・医師の皆様に対するお考えを伝えて下さいました。

講演後のアンケートには「理事長のパワーを身近に感じ、男女参画の枠を越えて色々考えさせられた」「今後のライフステージに不安があったが、他研究者の方の話を聞いて今後の参考にしたいと思った」などのお言葉を多く頂戴しました。



会場参加者19名

※竹之下理事長のメッセージにつきましては後日オンデマンド配信を予定しています

FMUキャリアサポート交流会を開催

令和6年1月30日(火)に今年度第2回となるFMUキャリアサポート交流会「未来の“私”を考えよう」をテーマに、ロールモデルとなる講師の方が普段の生活の中で感じたことについてキャリアアップのためには何が必要か体験談を踏まえてご講演いただきました。

医学部2年生・3年生による「医学生が気になる医師のこと」では、医学部学生に行ったアンケートを基に現役医師に向けた質問を作成。任意で得られた回答を今回発表されました。

医学生視点での現役医師の回答ということで、興味を惹かれる内容でした。



看護学部生命科学部門講師 加藤郁子先生は「精神看護と私～看護師30年、キャリアを振り返る～」と題し、看護師を目指したきっかけや看護師としてのキャリア、また、看護学部で勤務されている現在までのなかで感じたことなど、経験してこられたからこそその講演内容に看護師として30年、培ってこられた経験の深さを感じました。

FMU成果報告会（3/1, 3/6）を開催

ダイバーシティ推進室の取組の一つとして、ライフイベント（出産・育児・介護・看護等）により、研究が困難な教員に対して、講座等研究員5名及び学生アルバイト5名を配置しております。今年度は上期と下期合わせて26名の教員の方に研究支援を行いました。今年度支援を受けた下記の方々にどんな支援を受けてどんな成果を挙げられたかお話しいただく「FMU成果報告会」を3月1日（金）・6日（水）開催しました。

3月1日（金）

【腫瘍内科学講座講師】

【小児科学講座】

【会津医療センター漢方医学講座】

講師	徳田 恵美 先生
助手	岡部 永生 先生
助手	佐藤 俊樹 先生 ★
	★ = Zoom講演

3月6日（水）

【循環器内科学講座】

【整形外科科学講座】

【泌尿器科学講座】

【乳腺外科学講座】

助手	富田 湧介 先生
助教	亀田 拓哉 先生
助教	星 誠二 先生
助教	岡野 舞子 先生

今回の成果報告会をオンラインで聴講された方から、初めて支援制度を知ったとのお声を頂きました。これをきっかけに制度を利用され、研究を進めていただくための一助となればと思います。

3/4 FMU看護学部カフェを開催

『Coffee Pour House』横山 梨沙様より『楽しみながら、誰かの生活や人生をちょっとだけ豊かに』をテーマに、バリスタとしてオーストラリアでの異文化の中での向き合い方や、飯舘村での町おこし協力隊として、幅広い年齢層の住民との関わり方や、地域に根差した活動のポイントなどを、講演いただきました。

講師の横山さんよりカフェラテ、Mork ホットチョコレート、紅茶をご提供いただきました。



◆用語解説◆ 『アライ(Ally)』

英語のally（アライ）には味方、同盟などの意味があることから、LGBTを理解し支援する立場の人を「アライ」と呼ぶ。

どのような性自認、性的指向の人も過ごしやすい社会であるために、法整備や制度を制定することと同時に、差別や偏見をなくすことにも取り組む必要がある。そのためには当事者の味方が増えることが大切である。

知識を得て、他人事ではないと思うところから「アライ」になることができる。

出典：【公益財団法人 日本女性学習財団】HPより一部抜粋

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別・立場に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、かつ、仕事と生活の調和を実現することを目指しております。

福島県立医科大学 ダイバーシティ推進室

E-mail : gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel : 024-547-1657（内線：2807） / HP : <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>
ダイバーシティ推進室長 小宮 ひろみ